



大漁旗をなびかせてぐんぐん進む漁船に、観光客は大喜び（海上パレード）

漁業を主産業とする本村には、村民全員がこぞって参加できる海の行事がなく、全村民参加型の行事開催が強く望まれていました。海の体験を通し、村の海産物など地元産品をPRし村内外に産物の消費拡大と産地としてのイメージアップを図り、観光客の誘致と村の情報発信などを目的に、第一回「ふだいまるごと海産まつり」は太田名部漁港を会場に十月六日、秋晴れのもと村民総参加で盛大に開かれ、大賑わいを見せました。今月号では、岩手日報社久慈支局、新沼雅和記者の「ふるさとズームアップ」や支局日誌で岩手日報に掲載いただいた記事（普代の海の恵み）、そして、村民の皆さん一人ひとりの漁業への情熱など「ふだいまるごと海産まつり」にかけた頑張りを紹介します。

ふるさとズームアップで 村の活性化に大きな弾み

ふだいまるごと海産まつりは十月六日、太田名部漁港を会場にふだいまるごと海産まつり実行委員会（実行委員長・深渡宏普代村長）主催で開かれました。三千人の集客目標を大幅に上回り、四千人以上の観客が押し寄せる大盛況を収めました。海産まつりは、岩手日報十月七日付、「ふるさとズームアップ」で大々的に掲載いただき、その反響は、村



魚もすばやい。捕まえたかと思うと、右へ左へスルリ。腰まで水につかりながら大物を狙って大はしゃぎ（活魚つかみ取り大会）

が抱える課題、「養殖コンブの未利用部分（加工残さ）」の再資源化に、大きな弾みがついたといえます。さかのぼること九月十日付朝刊、岩手日報支局日誌の中で久慈支局の新沼記者は、わが村を「普代の海の恵み」のタイトルで「温かな人間味に感動」とし「ふだいまるごと海産まつり」のほか、村が誇る雄大な景勝地のひとつで、太平洋を

一望できる黒崎展望台など、景観と人情を「まるごと大きく」取り上げてくれています。また九月三十日付朝刊では「ふるさとズームアップ」七日朝刊で特別報道「普代の「ふだいまるごと海産まつり」」と題したPR掲載も、集客の大きな原動力となり村内外に強烈なインパクトを与えてくれたといえます。



まつりを盛り上げるふだい荒磯太鼓



普代小児童たちが舞う鶺鴒神楽「綾遊び」も見事に華を添える